



ごんなに
たきつけても
ゼンタイ狂はない
不振の腕時計
感動の腕時計

平町四丁目
會田時計店
電話三六三

腸胃

専門 内科
腸十二指
腸虫指
病病

梅毒

専門 皮膚
婦淋皮
人病病

院病村松 町南平
電話七〇一

ンバカ生學
工帽生學
店商ヤルツ
(番十四百話電) 目丁四町平



刊夕日十月三

常磐文藝
初春遊海邊
美瀬

春の海まだおぐらきに帆
ひとつ漕ぎゆける見ゆ陽の
出づるかた

春の海潮みち來らし朝なき
の渚もしろく水泡するなり

白雲のかげもわづかにはる
か遠くま帆もゆれなき春の
海かも

春の海はるかの岬に茨城の
日立の煙りなびきて見ゆも

小島かげ砂にいこへば足跡
の渚につまき風だにもなき

小曲
島田丹光

△寂しき夜曲
住き人の思ひでを
ふくよかにもてる
フリージャなれど
今宵にひたにわびしく……
そとさうるはしき姿……
ほの甘き香……

今宵あまりにも
遠つなる君の幻のなしく
甘き香もすさる胸うちに
さびしさをうろるよ……

△遠き人へ
水色の灯被の房に

ほの甘き思ひの
もつれ……
胸ぬちに幻のうれしく……
かゝる宵は
泌々と遠き君を想ひ
書き送くらん佳き人に
はるけき思情を……

山をのぼる
森れい子

朝風を吹く杉山にさかかれ
ば風のごとく鳴く名無し
鳥のまり

山越いて海渡りたる旅人の
それのごとくにつかれし心
注意 住所氏名を明記して
ない文藝投書は、ごんな傑
作でも没書にしますから御
承知願ひます

生徒募集摘要

- 1 高等女学部第一學年 五十名 △志願者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印ノ上三月三十一日マデニ
- 2 全 第二學年 補欠 若干名 平町藤田女學校ニ提出
- 3 裁縫女學部普通科 百五十名 △定員超過ノ際ハ在學證書ニ
- 4 全 高等科 若干名 △定員超過ノ際ハ在學證書ニ
- 5 専 修 科 三十名 書提出ノ順ニ採用ス
- 6 洋服裁縫科 初等科 二十名 △詳細ハ本校宛學則請求
- 7 研 究 科 高等科 二十名 昭和三年三月

福島縣平町 私立藤田女學校
全 湯本町 私立藤田女學校
全 江名町 私立藤田女學校
全 江名町 私立藤田女學校
全 江名町 私立藤田女學校

謹啓、此度び小賣部新設の記念として試
みましたユラノスケ瓶詰三ケ日
の特賞は幸ひ各位の多大なる御同情に依
りまして豫想外の盛況を博し誠に感謝に
耐ぬぬ次第であります。今後は各位の御
同情に酬ゆる爲め益々自重致しまして飽
迄良い酒を安く廣く、生産者よ
り直接需要家へのモットーに従ひ必らず
御期待に反かぬ決心でありますから何卒
御愛顧の程を願ひ上げます
右御禮旁々御挨拶まで
昭和三年三月十日



銘酒 乃良
醸造元 永山本家
小賣部
電話二〇七番

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平南町(電話一七〇番)

今大好評賣レルハク
御土産ニ御進物ニ御旅行ニお茶會ニかるた會ニ
絶對限リ平驛前ホテイヤの
薄皮まんぢゅう
製造本舗
布袋屋菓子舗
電話三五六番呼

生徒募集

本科第一部	(從來ノ高等女)	卒二	五十名
本科第二部	(從來ノ師範部)	卒二	五十名
技藝高等科	(從來ノ技藝高)	卒二	五十名
技藝速成科	(從來ノ技藝部)	卒一	五十名
	(速成科ト略同)	卒業	五十名

出願期日 三月三十一日
學則並入學願書履歷書用紙ハ郵券二錢ヲ添へ本校ニ
請求セラレタシ
平町搔埴小路(電話四四五番)

東京大歌舞伎
市川壽美十郎 大一座
市川海老藏
每夜大入厚く御禮申上
替リ狂言
一番目 二人奴與次郎稻荷
中幕 山門九三の桐石川五右衛門
山門よりまゝ子いぢめ笠入りまで
二番目 琵琶の影清 阿古屋琵琶せめまで

皇漢藥主劑にして
其偉効を確認せられたる
神經痛リウマチス靈藥 「檜尾製」**リウマチ湯**
定價 一圓、二圓、四圓
他藥劑にて効果なき人々に一刻も早く服用を勸む
平町五丁目角

代理店 **山野邊藥局**

編輯記者募集

- 一、資格 専門學校卒業以上の學力を有し多少經驗ある者
 - 一、人員 一名(申込多數の場合は試験採用す)
 - 一、俸給 初給七十圓
- 此外見習記者として中等學校卒業程度以上の學力を有する者一名採用す
- 右志願者は三月廿一日迄に履歷書持參出頭されたし

常警毎日新聞社

大敷網開始

四月上旬から

石城郡小名濱町の大敷網並に豊間村の大敷網は同濱に於ける有望なる漁獲として無くてはならないの、一つにかぞへられてゐるが豊間大敷網は數日前新潟縣から九十餘名の漁夫を雇入れ四月上旬から開始する準備をなした一方昨年からは始めて白井家の小名濱大敷網も準備を開始し昨年より二倍の大規模のものとして四月から同様開始することになつた由である

濱三郡木炭

移出高大減少

濱三郡木炭同業組合の二月移出生産検査總數は石城中移出生産検査總數は石城郡六萬三千八百五十九俵、双葉郡五萬六千九百五十五俵、相馬郡二萬四千四百二十二俵、合計十四萬四千四百七十七俵と前月に比し俄然六萬

各町村共

財源苦境に

新事業見合せ

石城郡下各町村の昭和三年度豫算は本月中に縣に報告する事になつて居る爲め之れが審議の町會は二三町村を除き既に終了を見たが各町村豫算審議終結の状態を見るに各町村主要費目たる教育費の充當を計る爲めには何れも役場費、土木費、雜費等を削減したもので多く殊に郡制廢止以來町村長及び吏員の旅費が町村經濟上に

一大脅威を與へて居るものゝ如く而も往年の不況から各町村共に前年度町税の未納が多きは數萬圓少きも七

三萬町民の正當な

主張が貫徹して

大平町百年の大計樹立と 鈴木辰三郎氏語る

大瀧發電所問題は昨報の如く伊知東事の熱心なる調停の下に町及び會社側より覺書を徴し大平町の希望通り解決を見るに至つたが該問題に關し先年來熱心努力し來つた縣會議員鈴木辰三郎氏は該問題の内容に就て語る

正當で

あつた爲であるが一面白井博之、高岡唯一郎、中野浩忠諸先輩の隠れた努力も永久に之を没すべからざるものがある自分亦微力乍ら之が解決に腐心し最善の努力を拂つた心算だが由來問題の論點は好間川本流水量は従來永い間の統計に徴するに最高七十個湧水時二十四個と注せら

れてゐるがその本流から瀧江筋の十二個平町の一個三分の外將來小名濱商港及び平小鐵道の敷設に伴ふ町の膨脹發展を人口十萬餘程度に豫想し且商港實現後に於ける小名濱の用水も姑息にして而も實現期を疑はるゝ鮫川疏水の復活に待つよりはその水源を好間川に求める事が最も簡便な事情にあるので好間川の必要水量は將來

如何に しても二十個位に見ておかねばならぬ即ち二十四個に減水する場合は好間川より二十個を地方民の生活上要せねばならぬのに發電所を設置して除水を他方面に放流さるゝに至つては實に由々しい

濱通り暴風

被害の報告

平土木監督所の報告によれば去月十四、五兩日の豪雨並びに同日二十三、四兩日の暴風による被害額は道路河川海岸等を合して六十五ヶ所、損害總額八萬五千圓あるが被害の主なるものは双葉郡の濱海岸の七手崩壊である

明日は休まず 貯金事務を 取扱ふ平局

本月十一日より十七日迄の一週間は第九回勸業獎勵調期間に付平郵便局にては十一日の日曜日は公衆の便を計り貯金豫入並に簡易保険料及郵便年金の受入及契約事務を取扱ふ由



家庭の調子

牛肉の土瓶蒸し
材料—牛肉一片(二百匁) 酒(一合) 醬油(三匁) 味淋(三匁) 鹽(一匁) 土瓶(一升位入る大形のもの)
調理—牛肉をよく洗ひ、

土瓶の中へ切らずに入れ、酒、醬油、みりん、鹽等を加へ土瓶には蓋をし孔や隙間のないやうよく目張りし口には栓をしてからとろ火にかき五時間程蒸す、これを適當に切つてソース其の他好み汁をかけて食す
材料—牛肉の土瓶蒸し

調理—肉に鹽をよりかけ、土瓶の蓋をしたものを刷毛でよく塗り炭火の上の網にかけて焼く、焼き過ぎないやうに未だ赤く少しく生でないかと思はれる時分に火から下す、焼き過ぎて焦がしたものは肉が固くなり消化が悪くなるから火加減を注意しなければならぬ

家庭の不和から

三寸の胸を傷めて

遂に死に急ぐ者や其他

春先は自殺が殖る

春先暖かさが加はると同時に一般に自殺者の數がふえるのが例となつてゐるが面白く暮せば暮せないでもない此世の中に思切りを付けてしまふ

實行に

乏しいもの

人間は さて男子の方が多いか女の方が多いか又年頃はどんなものかを調べて見ると、先づ性別にすると一體に女より男の方にそれが多いことであるこれはすべて、男は氣が短い

であるから死に度くても死なないで済んでしまふ事が多いと見てもよからう、しかし女は母性愛を持つてゐるので子供でもあればついでの子の愛に引かされて死んであらう。それは狂女でもなほ

母性愛

を發揮する

ものゝある事によつても程度の神經衰弱によるものが多いが春の陽氣のせいである一つの苦痛に堪へ兼ねて氣狂になり遂に自滅するものであるが、その氣狂になる年頃は男の方は三十歳以後四十歳位までに一番多く

女の方

は十五歳頃

から二十五歳頃までに多い男の方に三十歳後に氣狂の多いのは事業等の失敗から精神的に打撃を受けての結果又は單なる生活難によるものが多いためである女の方は割に苦しい間に氣狂の多い

のは生活的な關係もあるであらう又女は男と比較して入る者が多い譯であり、その家庭上の不平等より所謂三寸胸を傷めた結果遂に死に急ぐ者が出るものと見てよろしい兎角心を使ひすぎ結果であるからもちろ大きく廣く心を持たなければならぬ

御大典が下準備

表彰される人々

今秋行はれる御大典に際し表彰せらるべき篤行者公益者に關し平町では今より準備調査を行ふこととなり該當者の取調中であるが相當多數に上る見込みである

平軍人分會

祝典中止

實戰談話だけ

平町在郷軍人分會が今日日の奉天占領記念日に松ヶ岡公園忠魂碑前に於て祝典を舉行する筈 あつたは既報の通りであつたが偶々久宮祐子内親王殿下の薨去遊ばされと悲懼に堪えぬ公報に接したの下祝典を取りやめ戦死病没勇士の英靈に參拜して實戰談話を催すのみと謹慎の意を表する事となつた由